

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	21-047	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>What Proportion of On-Trade Alcohol Is Served to Those Who Are Already Potentially Intoxicated? An Analysis of Event-Level Data</p> <p>アルコール中毒の可能性がある人にどのような店でアルコールが提供されているか</p>		
<b>執筆者</b>		
Holmes J, Angus C, Sasso A, Stevely AK, Meier PS.		
<b>掲載誌</b>		
J Stud Alcohol Drugs 2021; 82: 602-609		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール中毒、飲食店		34546906
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> アルコール中毒の飲酒者に飲食店などで過剰に酒を提供することは有害である。本報告では、英国においてアルコール中毒と考えられる人にどのような場所で酒が提供されているかを明らかにするものである。2009-2017年における性と年齢別の実態も解明する。</p> <p><b>方法：</b> 英国における約9万人の代表集団に2009-2017年に1週間の飲酒記録をしてもらい、約14万の店での飲酒機会のデータを得た。アルコール中毒の可能性についての3つの基準（リスク上昇：女48, 男64g以上、高リスク：女96, 男128g以上、最高リスク：女144, 男192g以上）に達しているかを最初に調査した。次にこの量を上回る飲酒が店（バー、レストラン、ナイトクラブ）で消費されているかを計算した。</p> <p><b>結果：</b> 2017年において、店で消費された酒のうち、43%がアルコール中毒のリスク上昇者、21%が高リスク者、10%が最高リスク者が消費していた。女性や若年者ではこの割合がさらに大きかった。しかし2009年から2017年でこの割合は変化しなかった。</p> <p><b>結論：</b> 英国において店で消費されるアルコール量の10%から43%を、アルコール中毒の飲酒者が消費していた。店での過剰な酒の提供が一般的と考えられた。</p>		